

いる可能性についても検討した。

266. 矢野 直 (気研応用), 朝来野国彦 (都立 RI 研): 放射性同位元素を使用する曝露実験函中の粒子濃度の時間的变化

放射性同位元素と空気中の浮遊粒子の相互作用を室内実験する場合には適当な容積をもった実験函を使用するのが普通である。この研究は、普通の外気を実験函に導入した場合の函内の粒子濃度の時間的变化をしらべたものである。

函内に何等かの agitator がある場合には濃度変化は
$$\ln\left(\frac{1}{n} + \frac{k}{\beta}\right) = \beta t + \ln\left(\frac{1}{n_0} + \frac{k}{\beta}\right)$$
 で表わされることが

わかった。agitator のない場合は coagulation によって変化し、外の factor は殆ど無視できる。

267. 矢野 直, 前橋紀恵子 (気研), 朝来野国彦 (都立 RI 研): Radon ガスの垂直分布の測定について

最近、地表面から放出される Radon をトレーサーとして大気中の拡散の実験が行われている。今回はその垂直濃度分布の時間的变化を測定するため、液体窒素固定法と液体シンチレーターを組合せ Contamination をさけて繰返し測定する方法について述べる

理 事 会 だ よ り

第 2 回 (14期) 全国理事会

日 時: 2月8日 15時~18時

場 所: 気象庁第3会議室

出席者: 孫野, 山本 (義), 磯野, 間野, 斎藤 (練), 畠山, 北岡, 根本, 小平, 大田, 桜庭, 須田 (滝), 朝倉, 岸保, 神山, 吉野 (以上理事), 高橋 (浩) (監事) 神原, 中野 (以上評議員), 柳井 (会員)

1. 報告事項

(1) 国際交流関係 (岸保理事)

前回の議決に従い ICSU に対し、気象学会として1万円寄附した。

(2) 集誌, 天気関係 (小平, 大田)

中国科学院の印刷物が発行中止になった旨連絡があった。従来交換図書として集誌を送っていた。復刊した場合は寄贈してもらう条件で集誌は今後も送ることにしたい旨報告。

1月から天気投稿規程を改正した。

(内容は従来と大差ないが、具体的表現とした)

2. 議 決

気象学会の運営について

前々から種々の機会に討論されてきた標記議題に重点を置いて、活潑な討論が行われた。その主な意見は後記のとおりであるが、今回の結論は次のとおり。

(決) 常任理事会で更に検討し、同会としての案を作り、3月中に全国理事会を開いて、理事会の意見をまとめることにする。

(審議経過)

北岡理事より、問題点を整理し、一つの考え方が説

明された。これを中心として、次のような意見が提出された。

(1) 学生会員について

・優遇の必要があるとして、学生の範囲 (定義) をどうするか。学生優遇の指導理念は何か、経済援助か、精神的のものか、それを明確にする必要がある。

・後進の育成、激励というのであれば、会費割引きなどでなく、他の方法がありはしないか、また、この場合学生を対象とするだけでよいか。

・学生の優遇処置として会費を安くする場合、権利を制限することは不適當ではないか。

(2) 地方区, 地方理事など

・地方区として、広島地区を殖やしてはどうか、

・関東地区から東京を独立させてはどうか。

・地方理事は廃止すべきでない。

・地方理事は廃止してもよい。その場合、支部長を通じて、地方意見は反映できる。また支部の数は増加すべきではないか。

(3) 選挙管理委員会について

細則を明確にすべきだ。

(4) 会の財政の強化について

広告料で収入増加は図れないか。

国よりの補助金の増額に努力すべきだ。

集誌の投稿料を徴収してはどうか (賛成者かなり多い)。